

マスコミの効果調査／東京定期調査のデータベース化

土屋 隆裕 データ科学研究系 准教授

【マスコミの効果調査あるいは東京定期調査】

「マスコミの効果調査」は、統計数理研究所が昭和28年(1953年)から昭和57年(1982年)までのおよそ30年間にわたり、半年ごとに(ただし最後の頃は年に1回)全部で52回行ってきた調査である。

「日本人の国民性調査」が5年に一度行われ、日本人のものの考え方の変化を長期的な視点からとらえようとする調査であるのに対し、マスコミの効果調査は時事的な問題に重点を置き、より短期的な変化を調べている。特に、どのようなマスコミの情報に接しているのかも同時に調べることで、世論の形成に対するマスコミの影響を調べようとしている点が特徴の一つであり、調査名の由来ともなっている。なお、東京23区の住民を対象としていることから「東京定期調査」とも呼ばれる。

これまで、調査の個票データは調査票のまま、あるいは手集計カードとして保存されており、電子データ化されていなかったために利用は困難であった。今回、それらの個票の電子データ化をすすめ、データベース化を行った。以下では、質問項目のうち比較的長期間にわたって調査されていた項目について、結果の一部を紹介する。なお今後のデータの見直し等により、これらの結果は変わることがあり得る。

【調査の概要】

- 調査対象：東京23区の有権者
- 調査方法：個別面接聴取法
- 調査対象数：各回600～1,000名程度
- 回収率：図は回収率の推移である。調査開始当初は7割を超えていたが、1970年代以降は6割前後となっている。

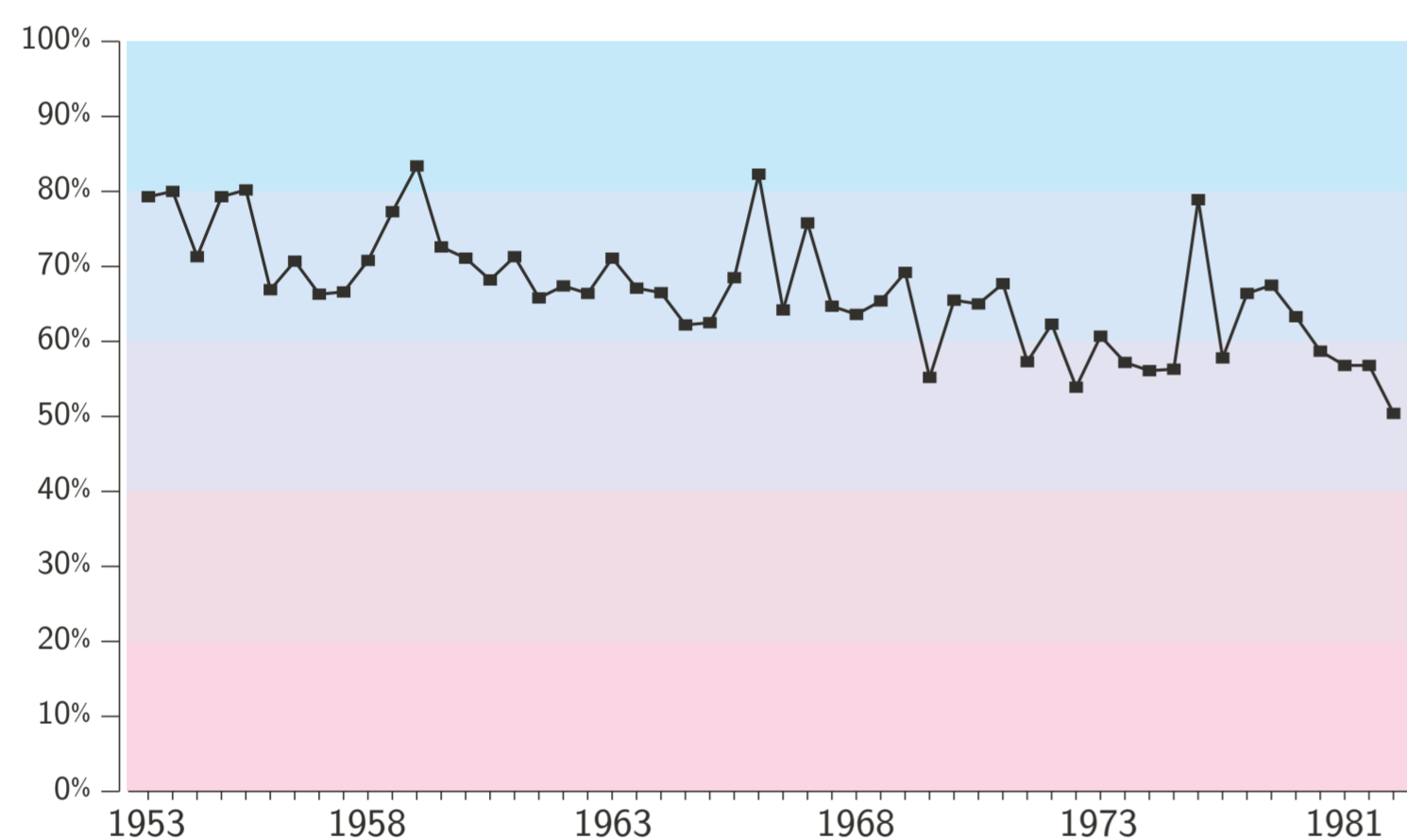


図1：回収率

【調査の結果から】

【景気動向】

ひとくちに言って、この春(秋)の景気はよいほうだったと思いますか、それとも悪いほうだったと思いますか？

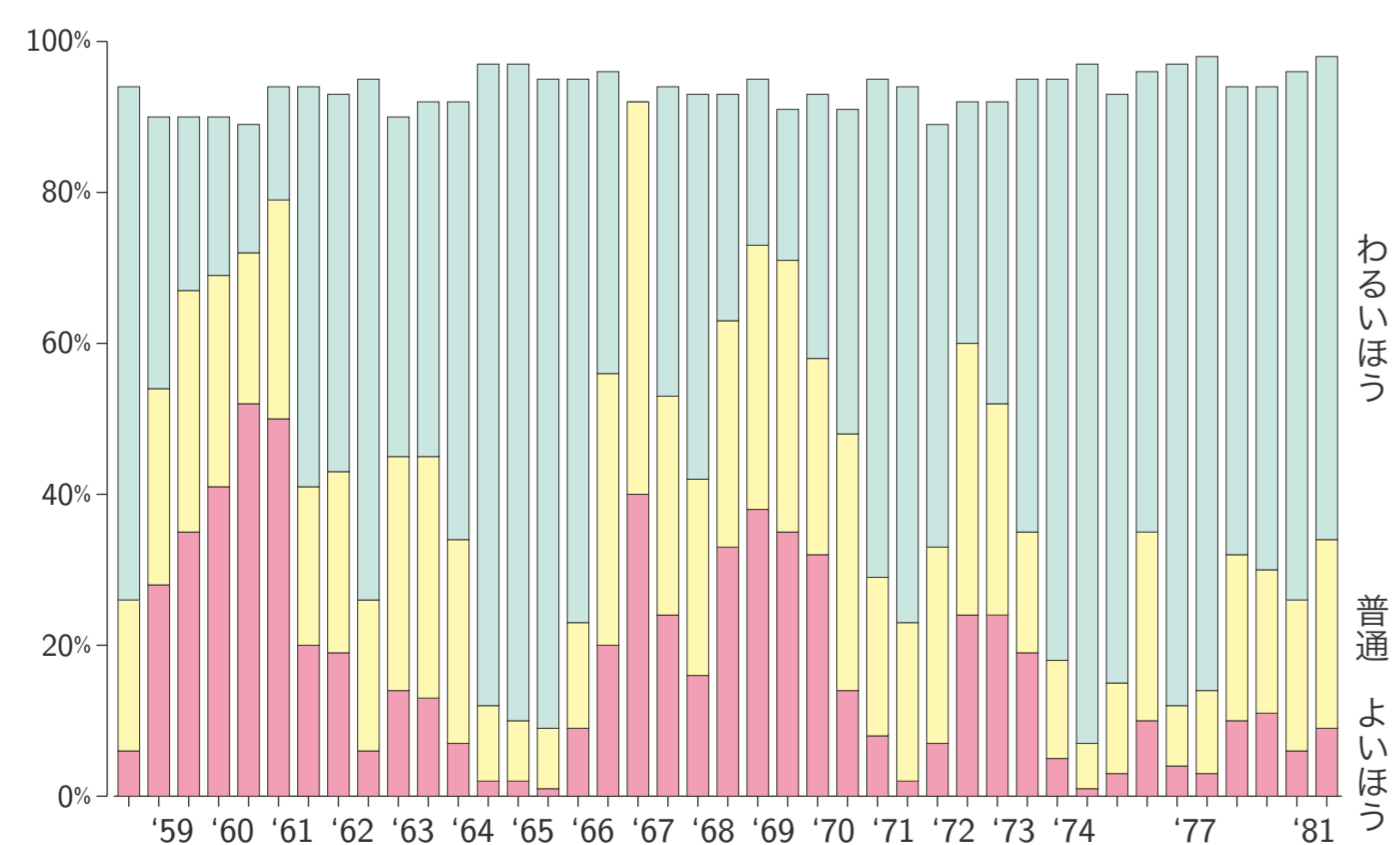


図2：景気動向

【くらしむき】

あなたのくらしは、2, 3年さきによくなると思いますか？それともわるくなると思いますか？

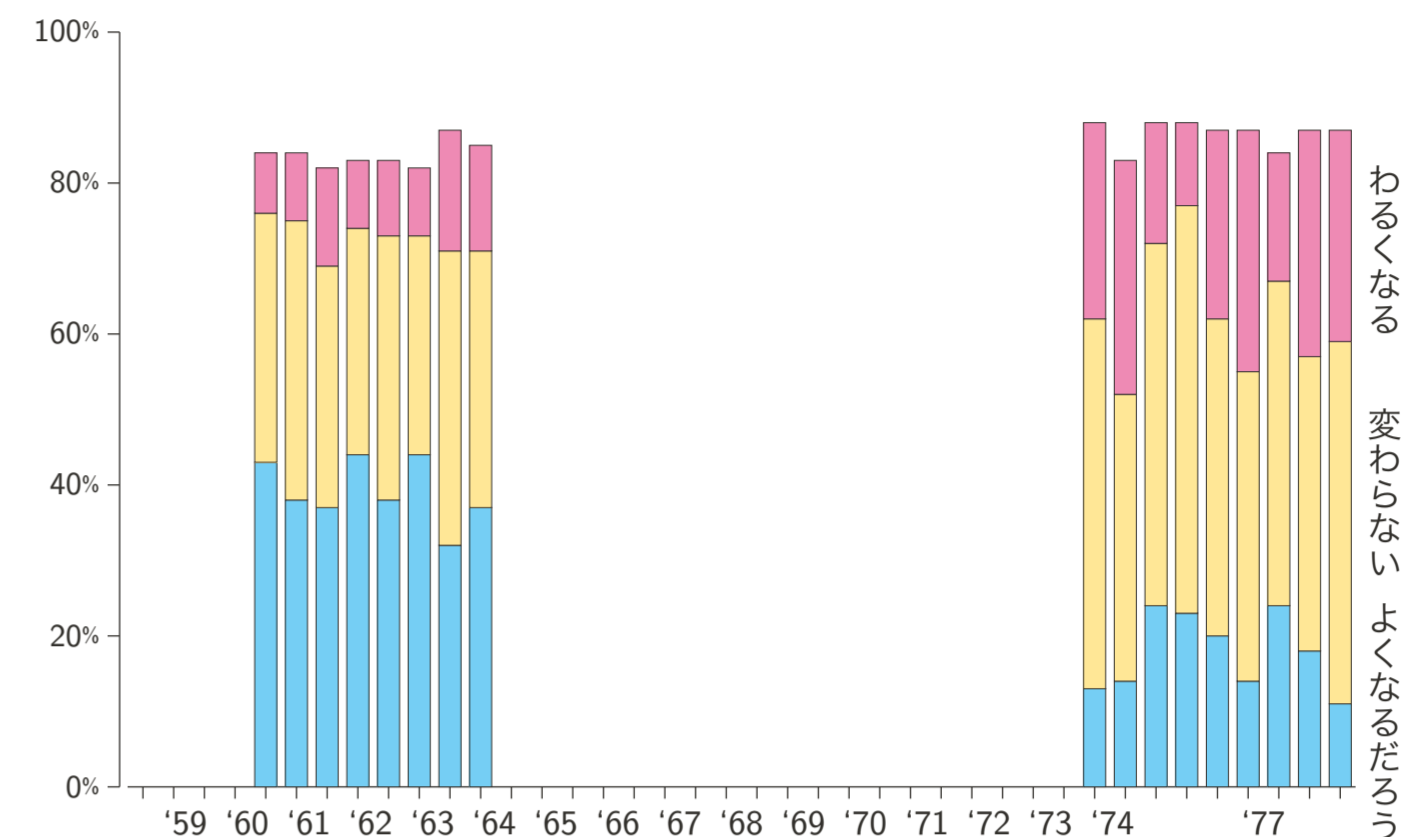


図3：くらしむき

【米ソ関係】

今度は外国どうしの関係ですが、アメリカとソ連との間の関係は、どうでしょうか？

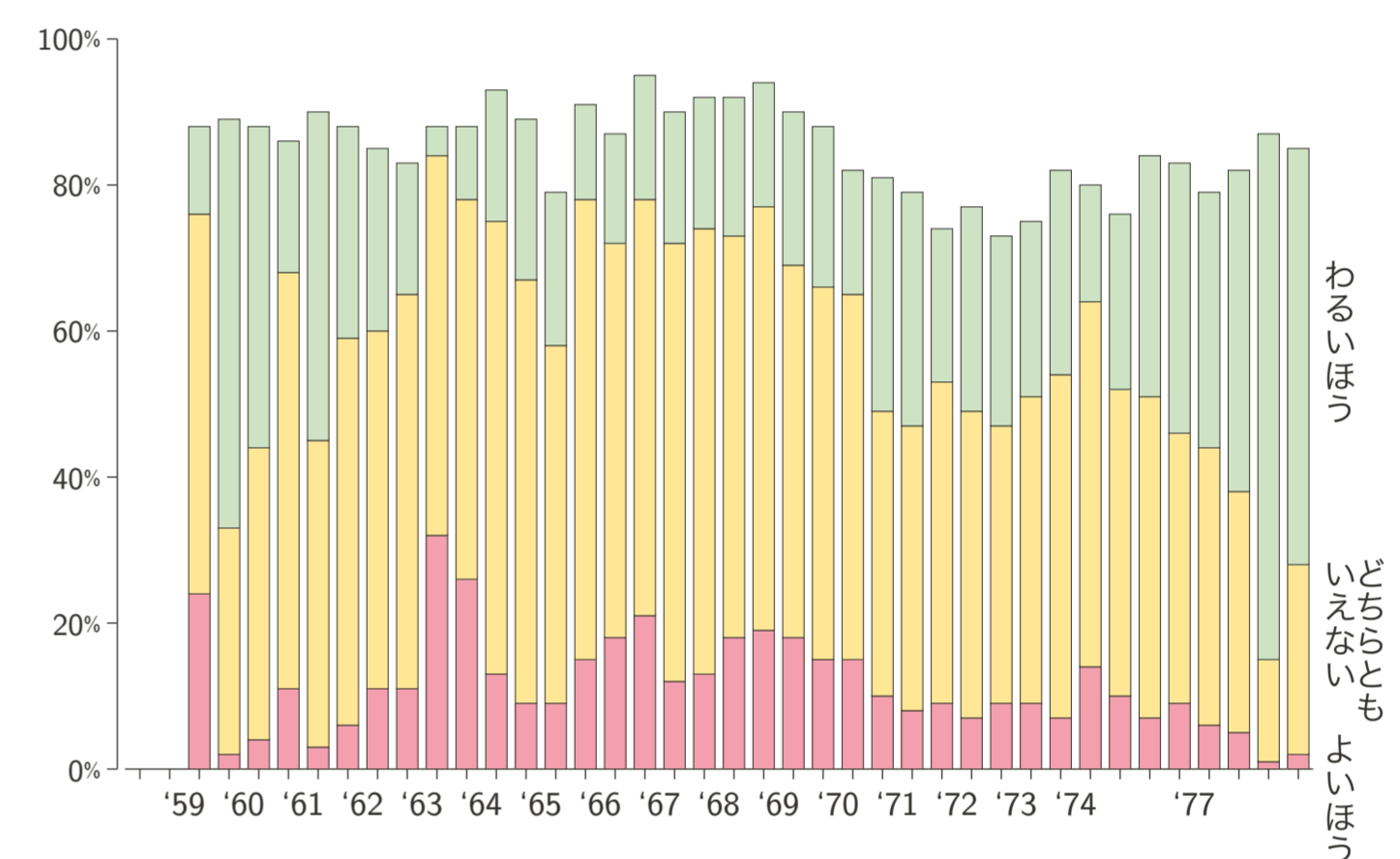


図4：米ソ関係

【日中関係】

日本と中国(中華人民共和国)との関係は、現在はどうでしょうか？

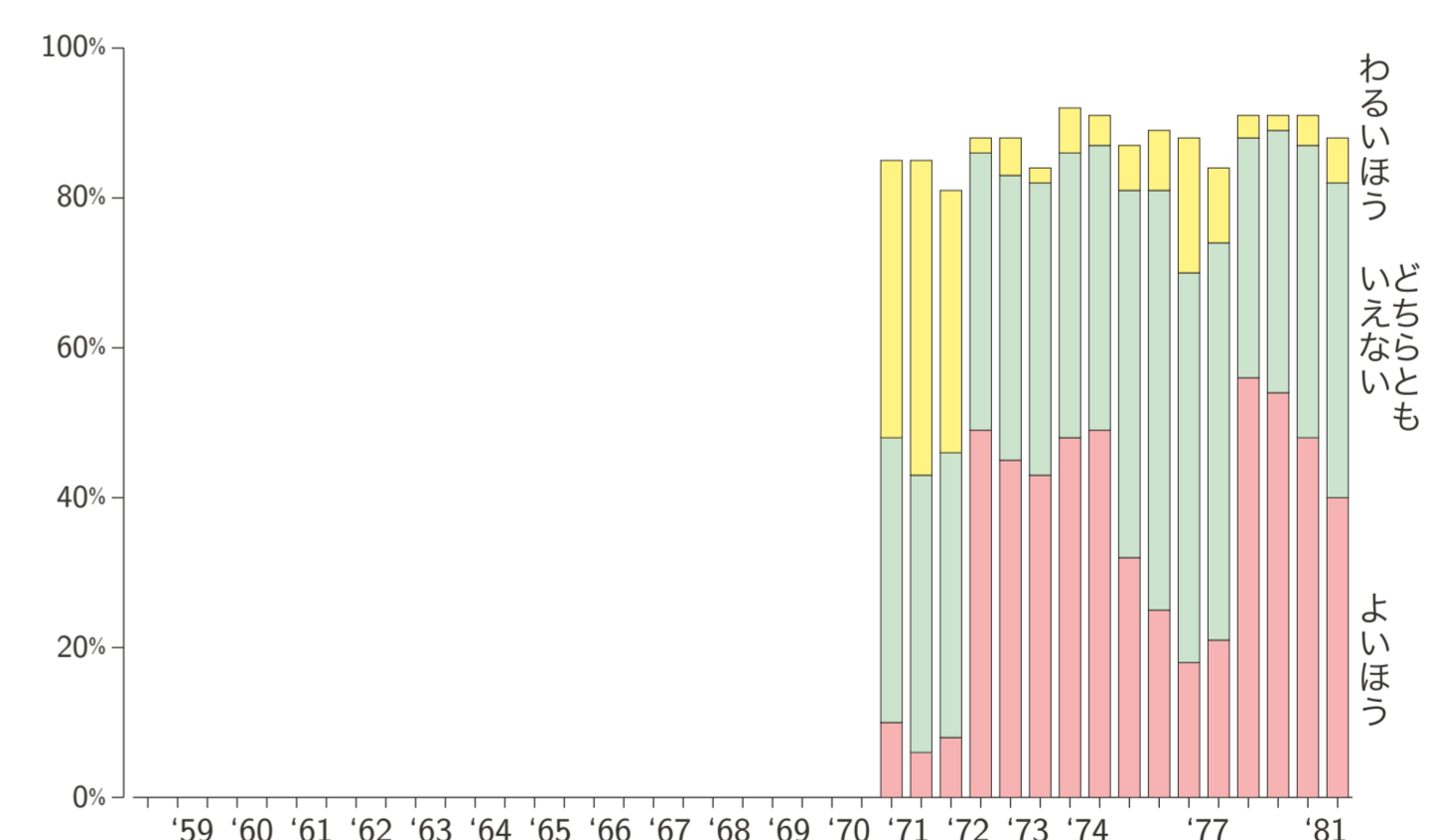


図5：日中関係

【データベースの今後】

各調査実施回の結果は、基本的な属性項目とのクロス集計とともに、既に以下で公開されている。

<http://survey.ism.ac.jp/ef/index.html>

今後は上記の時系列結果の公表を行うとともに、個票データの共同利用を進める予定である。